

佐藤義興

阿蘇市長

熊本地震からの復興と 阿蘇の良さを発信



——熊本地震で、阿蘇地方は大きな被害を受けられました。
佐藤市長 阿蘇市では、熊本地震の28年だけではないんです。実はその4年前にも九州北部豪雨災害で大変な被害に遭いました。

命の道である国道そのものが、通行が出来なくなると同時に生活道もそうでしたし、道をいかに早く復旧して、市民の皆さん方が通常の暮らしに戻るよう、色んな

に復旧して頂いて、またトンネル工事をして頂き、中九州高規格道路とも結ばれるということで、将来においても地域の発展にもつながります。経済的にも経済交流の発展に活かされると思っています。平成28年の大きな地震で大動脈である国道57号が封鎖されて、若い青年が土砂崩れに巻き込まれ、大切な命を落とされたことは大変残念でした。

——阿蘇大橋、国道57号の復旧の喜び、また二重峠や滝室坂のトンネル整備への期待はいかがですか。
佐藤市長 震災後の令和2年10月に開通した国道57号現道及び北側復旧道路、また令和3年3月に開通した新阿蘇大橋については、阿蘇市のみならず、阿蘇地域へのアクセスを復活・充実させました。国道57号は車線が増え、それと同時に災害時に迂回路がなかったこととの反省を踏まえ「北側復旧道路」を短期間で整備して頂いたおかげで安心して生活が出来るし、移動時間が随分と短縮されて、渋滞も無くなりました。将来は、高規格道路と結びつけていくということでも有りますし、その道路の大切さというのは普段通っておっても何ら感じなくて、当たり前のように



左から下城氏、阿蘇市長、阿南氏

に思うけれど違うんです。思いがそれぞれ込められた道であるということ、道路の大切さとこれから更に交流人口の維持・増加、また地方においてその交流によって地域の良さを発信できる大事な道であると思っています。

また、中九州横断道路に位置づけられた滝室坂道路については、完成すれば人、モノ、情報の流れがこれまで以上に活発になり、産業、観光、文化の振興、経済の発展、また「命の道」としての機能など、様々な効果が期待される。本市としても国や関係機関と連携しながら今後もしっかりと取り組んでいきたい。

——新阿蘇大橋、道路網を観光面、暮らしの面からどう生かそうとお考えですか。
佐藤市長 これらの道路や新阿蘇大橋が開通したことによって、阿蘇の素晴らしい草原や景観、そして活火山でありながら、中岳火口が直下に眺められるという地域の資源をより多くの方に見て

——今回のみちづくしでは、道守・風景街道・道の駅活動の三位一体——「三つの輪」の連携で観光など地域振興の道を探ります。
市長さんからの提案をお願いします。

ます。

佐藤市長 コロナの影響下では、ウィズコロナ、アフターコロナということで、しっかりとその辺の取り組みをみんなが共有して、発展的に取り組んで行く、そういう大会に今回はなれば良いなと、思っています。

道の駅「阿蘇」は、年間100万人を超える皆様に利用いただいており、情報発信だけでなく、地域資源を活用した都市と農村を結ぶ交流拠点でもあります。道守活動や風景街道の取り組みと連携し、地域の人々と行政が力を合わせて、風景、自然、歴史、文化など、地域の魅力を「みち」でつなぎながら「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による美しい景観づくりや魅力ある地域づくりを進めていく必要があると考えています。

特に九州を横断する「やまなみハイウェイ」、あれだけの景観はおそらく日本全国を探してもどこにも無いとおもっていますし、火山の爆発と人々の野焼きによって出来た素晴らしい共生する観光地と景観であると思っています。

野焼きなどで阿蘇高原の景観が維持されています。ボランティアの人々が県外からも集まっています。

野焼きが抱えている課題や皆さんに訴えたいことがあればお聞かせ下さい。

佐藤市長 広域観光です。九州中の色々な所から集まってもらうこ

とが必要ですので、道しかないですよ。

野焼きは最近では、担い手が減少している中、地元の人員では足りない分は、野焼きボランティアのご協力をいただいています。野焼きは阿蘇の草原を守るために大切な行為であり、必要不可欠だと考えているので、行政としては、必要な支援をしながら少しでも野焼きの伝統が長く続くよう取り組んでいきたい。

大分から中九州道が竹田まで来て、それから波野の方でトンネル工事がされていますが、大分と熊本の一部が繋がっていない。阿蘇が人を集めるには、どうすればいいと考えられていますか。

佐藤市長 3年前に竹田〜阿蘇間の道路は事業化をして頂いて、地元説明会、そして用地買収など、一歩前進しているところで。大分から熊本側に整備が進む高規格道路について一段と前に進んでいます。

この阿蘇地域が、大分からでも熊本からでも便利に来れるようになるかと思っています。そのルートの計画案が出来る前に、我々はその道路の活用をしっかりと考え、観光地として、訪れる人が魅力を感じ、また居住していただけるような地域にしていかなきゃいかんと考えており、それが大きな課題だと思っています。

みちづくしには、400〜500人の皆さんが参集します。大会ではどのような議論を期待されていますか。

ていますか。

佐藤市長 道の大切さでしょうか。人々の交流とかあるいは文化の発展もそうですし、生活を支え、命を大切にすることを道だと思っております。ウィズコロナのもと、それぞれの地域がどう発展をしていくか、また、サステイナブルを踏まえ魅力的な観光地であり続けるために求められていること、また、人口が減少していく中においても、道路を通じ地域が持続していくための都市と地方の関わり方などについての議論を期待しています。

是非ともその辺りのことを含め、議論していただきたいですね。今回の大会において九州の中心地であるこの阿蘇の地から色々な思いや大切な道について発信出来て、そこにまたそれぞれが共鳴をしながらきちんと道の大切さ等を認識して盛大に繋げていくという大会になればと思っています。

プロフィール

さとう・よしおき 昭和24年8月6日生まれ、72歳。阿蘇市出身。阿蘇高校、近畿大学卒業後、国会議員秘書、建設大臣秘書官、経済企画庁長官秘書官などを歴任し、平成17年3月に阿蘇市長に初当選。現在5期目。

インタビュアー

道守くまもと会議世話人

阿南誠志氏

道の駅「阿蘇」駅長

下城卓也氏

みちづくし in 阿蘇 2022

阿蘇からのチャレンジ 復興九州 ～パワフルな風を届けよう～

開催日：令和4年10月28日(金)、29日(土)

会場：阿蘇プラザホテル（熊本県阿蘇市内牧温泉1287）

【1日目】交流会・交流集会

【2日目】現地体験学習



テーマは「阿蘇からのチャレンジ 復興九州 ～パワフルな風を届けよう～」です。熊本地震や北部九州豪雨などの大災害からの復興、その後の地域振興に「道守」「風景街道」「道の駅」が果たす役割について議論し、また、コロナ禍で情報交換や連携が出来なかったことを踏まえ、「Withコロナ、アフターコロナ」とどう向き合っていくかについて意見交換できる機会にしたいと考えています。

雄大な阿蘇山を望み、九州全体の地域振興についてとことん意見を出し尽くし、心ゆくまで話し合えればと願っています。

今回は一堂に会し、交流集会も賑やかに開催し、楽しい一時を過ごしたいと考えていますので、多数ご参加されますよう心待ちにしています。